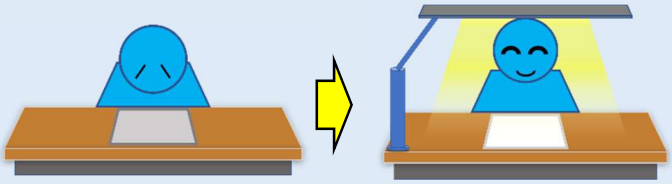
弱視特別支援学級における参考資料　第３号

弱視児が見やすい教材を作成するために

「見やすい教材」のためには、「文字の拡大」、「適切な照明の確保」、「図と地のコントラストの調整」などの工夫を、児童生徒の実態に応じて行うことが必要です。
今回は、「適切な照明の確保」と「図と地のコントラストの調整」について紹介します。

適切な照明の確保

明るさは、弱視児の学習環境を考える上でとても大事な要素となります。
教室全体の明るさは日光の影響を受けることから、教室にはブラインドやカーテン、暗幕などを設置して教室全体の明るさを調節できるようにします。また、廊下側と窓側では照度が異なることから、デスクライトを準備し、机の上を一定の明るさに保つことが必要です。一般的には、1,000Lux程度の照度があると見やすいとされていますが、明るすぎると眩しくて見えにくくなる弱視児もいますので、一人一人の見え方を把握した上で、机上の照明を検討する必要があります。



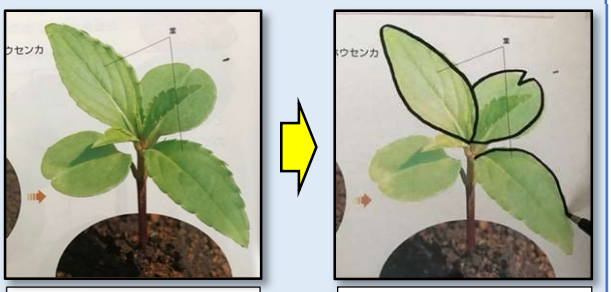
視距離が短い弱視児は、自分の頭の影で紙面が暗くなってしまう。

デスクライトを使うことで、紙面が明るくなり、文字などが見やすくなる。

※スマートフォンのアプリには、簡単に照度を測ることができるものもあります。

図と地のコントラストの調整

プリント教材などを作成する際には、図と地のコントラストを明確にすることが重要です。
例えば、文字や絵などを拡大しても、インクののりが薄いプリント等は見えにくいので、鮮明なプリント等を提示する必要があります。この場合、色彩に対する配慮も大切です。
弱視児の中には、微妙な色の差異や色と色との境界の認知が難しい子供がいます。特に、橙や黄緑などの中間色を用いた教材は、弱視児にとっては、見えにくい原因となる場合も多くあります。このような教材は、単に拡大するのみならず、色彩に関する補正も必要となります。その場合の原則は、できるだけ赤や青などの鮮明な色彩の色を用いるとともに、色と色との境界に、はっきりした輪郭線を入れるなどの配慮も必要です。



植物の葉のように同系色で示されると弱視児には見分けるのが難しい。

教師が、葉を数えながらフェルトペンで輪郭線を書くと見やすくなる。

チェックリスト　見やすい環境で、見やすい教材を使いましょう。

- □ デスクライトを活用することで見やすくならないか、確認しましょう。
  - ➡ 全体照明の調整に加えて、個別照明を活用しましょう。
- □ 見やすいプリント教材になっていますか。
  - ➡ 色は中間色よりも、鮮明な色彩の色を使いましょう。
  - ➡ 図と地が明確になるように、輪郭線を入れましょう。

「弱視の児童生徒への指導方法等の在り方」について研修ができます。
北海道立特別支援教育センター　電話 011-612-6211